



地域の災害医療の 中心となる病院を目指して

10月度チーム活動報告

テーマ：幸消防署との合同訓練（火災想定）

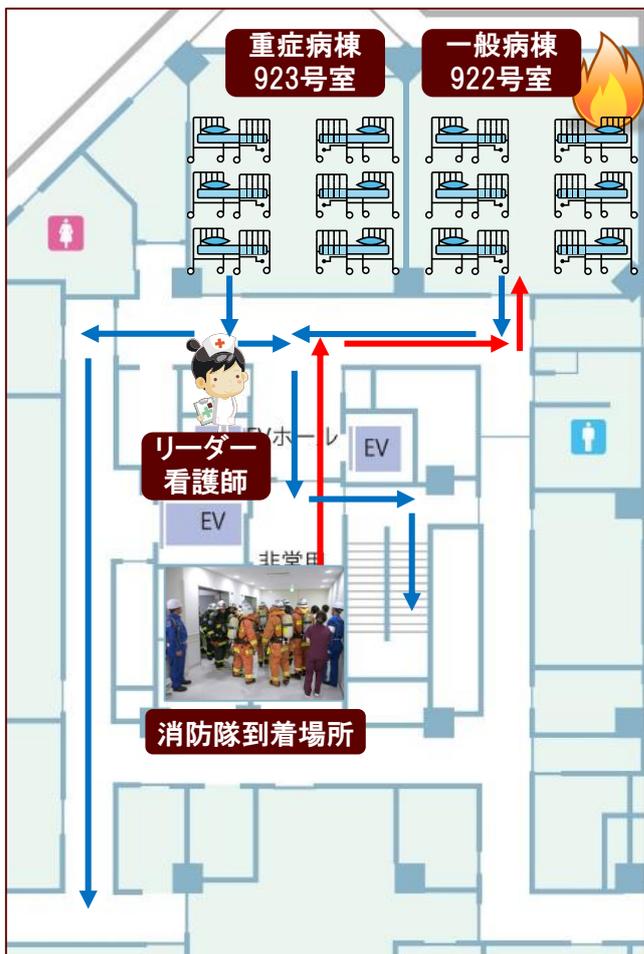
日時：10月4日（土） 13:30～16:00

参加者：67名

医師1名/看護師21名/コメディカル12名/
事務33名

訓練シナリオと動線

5階講義室を模擬9階病棟とし、922号室内床頭台付近からの出火を想定。初期消火、922号室6名と923号室6名の患者の避難・搬送を行います。今回の訓練では、初期消火活動不可能、922号室1名の患者の所在の確認ができないことを想定し、消防隊による消火・患者救助訓練も行いました。



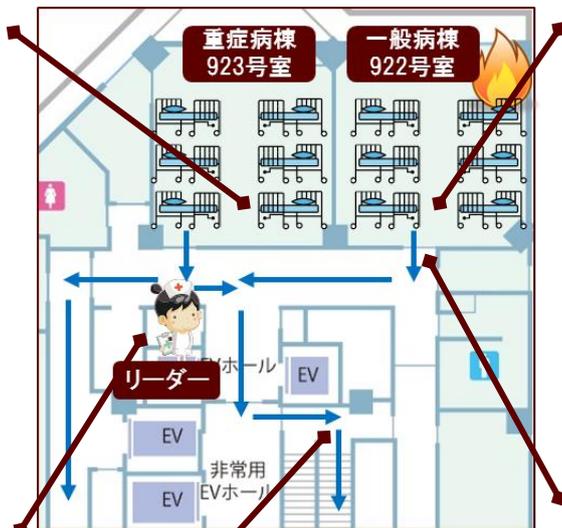
→ 患者避難・搬送動線
→ 消防隊活動動線

火災発生	火災発生⇒9階の火災報知機が作動
火災発見 状況報告	<ul style="list-style-type: none"> ■ 副受信機で火災場所を確認⇒火災発見(922号室床頭台) ■ 火災発見者はリーダーに火災発生と922号室患者状態を報告 ■ 922号室の歩行可能な患者は廊下へ避難誘導 ■ 各スタッフは受け持ち部屋の患者状態をリーダーに報告
状況確認 通報・指示	<p>リーダーは火災通報と各スタッフへの指示</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーは火災通報専用電話機の火災通報ボタンを押す ■ リーダーは各スタッフにそれぞれの行動を指示していく ①初期消火の指示 ②火災状況の確認と防災センターへの通報の指示 ③922号室の患者避難・搬送の指示 ④排煙口と防火戸の操作を指示、延焼拡大を防ぐ
火災発生放送 応援者参集 応援者へ指示	<p>防災センターから院内放送「9階で火災が発生しました」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 院内放送を聞いた応援者は9階病棟に応援に向かう ■ リーダーは応援者に指示を出していく ①923号室の患者避難・搬送を指示 ②初期消火応援の指示 ③防災センターへの状況報告・追加応援依頼の指示
消火不可能 避難者確認	<p>農煙熱気のため消火活動不可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 初期消火者は922号室の扉を閉め、避難 ■ 防災センターに状況報告 ■ 避難者の人数・氏名を確認 <p>⇒922号室の1名の患者の所在確認ができない</p>
消防隊到着 消火・救出開始	<p>通報を受け、消防隊が5階エレベータホールに到着</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 消防隊による消火活動開始 ■ 消防隊による逃げ遅れた患者(922号室)の救出 <p>救出した患者はER応急救助隊が引き継ぐ</p>

実際の訓練のようす

923号室患者避難・搬送

オペ後で重症度が高い患者が多いため、医師がトリアージをして、適切な搬送場所を指示していきます。重症度の高い患者は水平避難（訓練では同フロアの研究室へ）をさせます。



922号室患者避難・搬送

今回は、発煙装置を使用して実際に煙を起し、煙で視界の悪い中での患者避難を体験しました。自立の患者が多く、パニックに陥り興奮しています。スタッフは患者を説得し、冷静に指示に従わせることも求められます。



リーダー看護師

防災センターと連携して、通報、スタッフへの指示だし、病棟の全患者・職員の安否確認をしていきます。922号室の患者1名の所在確認できず。



下階へ患者避難・搬送

水平避難が必要な患者以外は、患者の状態に見合った方法で、4階、3階に垂直避難させていきます。



初期消火

指示を受け初期消火に向かいます。応援者とともに消火活動が続けるが、消火活動不可能と判断。



初期消火不可能・患者1名の所在確認できず



消防隊が到着 エレベーターで5階へ

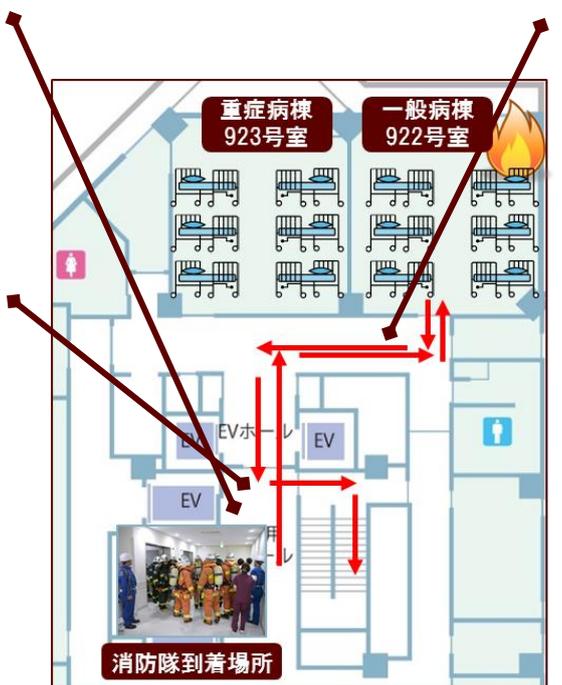
消防隊到着

5階エレベータホールに消防隊が到着。消火、患者救出に向けて、突入の準備を開始します。



ER応急救助隊による患者蘇生

消防隊により救助された患者はCPA状態でした。ER応急救助隊が消防隊から患者を引き継ぎ、すぐに心肺蘇生を開始。自動心臓マッサージシステムを装着し、2階ERに患者を水平に保ちながら階段で搬送していきます。



消防隊突入

エレベータホールの防火扉から消防隊が突入。922号室に向かいます。922号室内にて患者を発見。患者はCPA状態。患者を救出しER応急救助隊のもとへすみやかに搬送します。



訓練のあとに

一連の訓練の後は、散水栓での消火訓練、起震車での震度7の揺れの体験をしていただきました。幸消防署の御協力もあり、充実した訓練になりました



訓練を振り返って

訓練後のアンケートを見ると、消防隊との合同訓練を通じて、「火災発生時の一連の行動についての理解度が高まった」との意見が多く見受けられました。一方では、マットレスでの患者搬送に対して、「マットレスが持ちにくい」、「搬送方法の検討が必要」との声も多かったです。また、パニックに陥った患者役の避難を担当した職員からは「実際の火災では、患者さんはもっと混乱する。」との声も。今回の訓練での成果・課題をまとめて、次回以降の訓練に生かしてまいります。